

2024 年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からのご意見を伺い、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

2024 年度の学校評価については、5つの評価項目を設定しました。「学院共通項目」として、「キリスト教主義教育」を、そして、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」「教育環境整備」「保護者との連携」「安全管理」を設定しました。

評価の実施に当たっては、各項目のテーマに基づく設問を設定し、保護者・教員にアンケート調査を行いました。アンケートの回収率は、保護者 82.0%、教諭 93.3%の回答を得ることにより客観性を確保するとともに、個々の意見も重視するように努めました。さらに、また、関西学院大学教育学部教員、関西学院短期大学教員の評価者に、日頃の保育を参観していただき、そのご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としています。

特に、2024 年度の大きな変更点としては、①土曜日から木曜日へと礼拝の実施日を変更、②熱中症対策として、従来聖和キャンパスのグラウンドで実施していた夕涼み会は幼稚園園舎内と体育館に場所を変更、運動会についても、体育館へと実施場所の変更をしました。千刈キャンプ場で実施していたお泊まり保育は、デイキャンプに変更しました。③保健衛生・安全面を考慮し複数の行事を取りやめ「ミュージックフェスティバル」などの行事を行いました。これらのことも今年の数値に反映されています。

今後も、関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育を目指してまいります。

子どもは、豊かな可能性をもち「いま」を生きています。環境を整えたり、きっかけを提供したりすることにより、子どもの中の宝物を「育む」ことになります。これが将来の生きる力の基礎となります。宝物の種に水を注ぎ、育むことが幼稚園の使命だと考えています。関西学院だからできる幼児教育・保育を、教職員・保護者・地域の方々、専門家、そして保育行政と一緒にあって、子どもが豊かな未来を過ごせるように創ってまいりたいと存じます。

2025 年 7 月 1 日

関西学院幼稚園
園長 千葉 武夫

学校評価

教育理念・使命・目標

＜建学の精神＞

聖書に示された世界観・教育観・子ども観をもって、キリスト教主義による教育・保育を実践している。子ども一人一人は、神様に愛されている存在として、慈しみ育てることを使命としている。子どもを中心に据えた教育・保育は、一貫した流れの中で受け継がれている。

＜教育方針＞

○子ども一人一人が、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。

○お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ちあう。

○神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらの教育方針に基づいて、教員は神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力、配慮をもって子どもと共に学び、成長する存在でありたいと願って保育を行っている。また、遊びを中心とした保育を実践し、子どもの心の育ちを支え導く援助を心掛けている。

2024 年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→ 本園の教育の根幹となるため毎年の評価項目に選定。
- ・教育課程・指導→ 重要項目であり、経年変化を図るため毎年の評価項目に選定。
- ・教育環境整備→ 園児が遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため毎年の評価項目に選定。
- ・保護者との連携→ 園児の健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため毎年の評価項目に選定。
- ・安全管理→ 園児の安全対策をとりつつ行う教育の充実のため、毎年の評価項目に選定。

2024 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義教育の理念の共有、キリスト教主義教育の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	A
目標	○教員間でキリスト教主義教育の理念共有に努める ○園児一人一人の発達・個性を把握し、園児が愛されていると感じられる保育をする ○園児一人一人が自分と他者との違いを知り、理解し合い、「共に生きる」ことを学べる保育をする		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	（具体的な取組の状況） ・保育の中で各クラスで礼拝を行った。身近な自然物や自然現象の話題から、神様の守りや、与えてくださる恵みに気がつき、喜びと感謝をもてるように祈る時をもった。また、欠席の友達のことをはじめ、家族や他者を思って祈る時を大切にしてきた。 ・その日の礼拝の内容や、幼稚園で大切にしたいこと、園児と共に考え話し合ったことなどが保護者にも伝わるように、降園時の伝達や配布物より理解が深めていけるように努めた。		

	・園児一人ひとりの誕生日を全教員で把握し、本園で過ごす時間の中でお祝いの言葉をかけており、園児も保護者も愛されていることを感じ、喜びのときをもてるようにした。 ・年長組は、隣接する西宮聖和キャンパス内にあるダッドレーチャペルで、学年で集まり礼拝を行った。年中、年少組も、各クラスでさんびかを歌い、聖書の話聞いて礼拝を行った（年間に年長組 33 回、年中組 30 回、年少組 25 回）。礼拝を行う曜日を、土曜日から木曜日に変更し、礼拝の参加者も増加した。 ・6 月には、各家庭より花を持ち寄り花の日礼拝を行った。年長組はホールにて、年中組・年少組は隣接する西宮聖和キャンパス内にあるメアリーイザベラランバスチャペルで園児と保護者、教員と共に礼拝ができた。また、11 月の収穫感謝礼拝では、各家庭より果物を持ち寄り、神からの豊かな恵みに感謝し、祈ることができた。持ち寄った花や果物を、日頃お世話になって支えていただいている大学の教職員の方々へ届ける機会をもち、神様から与えられている恵みや喜びを分かち合い、共有するようになった。 ・11 月には、講師に関西学院短期大学宗教主事の小見のぞみ先生を招聘し、クリスマス準備保護者会を開催した。 ・クリスマスには、年長組が各クラスでページェント（聖劇）による礼拝をした。年長組・年中組・年少組・保護者・来賓の方々と共にイエス・キリストのご降誕を祝い、喜び、祈るときをもった。保護者にも、クリスマスについての理解を深める機会となった。 ・1 月には、阪神淡路大震災から 30 年経過したことを覚えて礼拝を行った。年長組はホールで保護者と共に、年中組・年少組は各クラスで礼拝をし、保護者へも防災・減災の意識をもつ機会となった。 ・キリスト教保育連盟の刊行物「ともに育つ」を保護者に配布し、キリスト教主義教育の理解を深められるようにした。 ・教員の学びとキリスト教主義教育の理解を深めるために、キリスト教保育連盟から刊行されている「キリスト教保育」を年間を通して全教員に配布した。 （取組の効果に対する評価） ・保護者アンケートの問 2「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている」について、「強くそう思う」が 77.4%（前年比 0.7%増）となり、「どちらかといえばそう思う」が 22.6%（前年比 1.4%増）であった。また、保護者アンケートの問 3「幼稚園は、友だち同士が認め合い、力を合わせる楽しさ、喜びを味わうまでの「プロセス」を大切に保育をしている」では、「強くそう思う」が 75.3%（前年比 1.8%増）、「どちらかといえばそう思う」が 24.0%（前年比 0.7%増）であった。幼稚園が、一人ひとりの育ちを受け止め、寄り添い、集団生活での育ちのプロセスを大切にしていることに概ね理解・共感が得られている。 ・教員アンケートの問 1「教員は、キリスト教主義教育の理念を共有している」では、「あまりそう思わない」が 14.3%（前年比 14.3%増）となった。また、問 2「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている」では、「強くそう思う」が 57.1%（前年比 21.5%減）、「どちらかといえばそう思う」が 42.9%（前年比 21.5%増）となり、教員それぞれが、園児一人ひとりの発達や個性、集団の中での育ちへの援助内容の共有・共通理解が十分にできていないことが考えられる。
今後の方策	・次年度より幼稚園から認定こども園に移行するが、教職員全員で普段から園児の姿や保育をみつめ、園児の育ちを中心に据えた保育のあり方について考えること。

	・園児への援助の省察を各クラスや学年、全体で共有し、教員同士のキリスト教主義教育に関する共通理解を対話を通して深めていけるようにする。また、時間的に補えない部分は、Slack で共有・共通理解ができるようにする。 ・園内研修、教師会での理念の共有の機会を設ける。
--	--

評価項目 【テーマ】	教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】	自己評価	B
目標	○園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する ○園児が集団の中で、互いに違いに気づき、理解し合えるように援助する。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) ・教員は年間指導計画、学年毎の月案、クラス毎の週案、個人記録、日案について、園児一人ひとりの発達段階や育ちなどを考察、省察した。 ・教員は、園児の育ちが個々から集団へと繋がることを願い、園児の育ちに合わせた援助や、クラス全体での活動に意欲的に取り組めるようにした。 ・教員は園児の姿を保護者と共有するために、登園時、降園時や懇談会などにおいて、園での取組やねらい、活動、思い願いを伝えた。iPad で撮影した動画や写真を用いて伝えることで、より具体的に理解してもらうことができた。園児が集団生活を過ごす中で育まれる力や成長、変化などを共有する機会となった。 ・教員は年齢や発達に合った教材を熟考し、園児が自主的・意欲的に物的環境に関われるように準備した。教員は人的環境として、園児が興味関心を深め主体的に活動を展開していけるように一人ひとりの育ちに合わせた援助を心掛けた。 ・日々、園児一人ひとりの姿や育ちについて教員間で話し合い、成長が積み上がっていくように努めた。また、各学年の活動について、ねらいや発達、経験などを省察し、教員の会議で共有して連携し、年度末には個人の育ちや願いを引き継ぎ共有した。 ・意識的に教員間で話し合い考えあう機会を持ち、話し合うことを大切にしてきた。そのことが結果的に子どもの育ちや成長に繋がると考えている。 ・教員園内研修を年3回行った（障害児教育について、クリスマスについて、保健衛生安全対策について）。教員自身が学び、視野を広げ、保育につなげる機会をもった。 (取組の効果に対する評価) ・保護者アンケートの問 5「幼稚園は、子どもたちの育ちに合った保育プログラムを実践し、個人に添った援助を行っている」に「強くそう思う」が 65.1%（前年比 2.7%増）、「どちらかといえばそう思う」が 33.6%（前年比 0.8%減）となり、肯定的な回答が得られた。日々の保育の中で、教員同士で保育内容について協議し、園児一人ひとりの発達や状況について話し合う機会をもっていることが、昨年度より、さらに肯定的な評価につながった。 ・教員アンケートでは、問 4「幼稚園は、園児一人ひとりの興味・関心を高め、主体的・意欲的に活動できるように保育をしている」に、「強くそう思う」が 71.4%（前年比 7.2%減）、「どちらかといえばそう思う」が 28.6%（前年比 7.2%増）となった。一方、問 5「幼稚園は、園児の育ちに合った保育プログラムを実施し、個人に沿った援助を行っている」に関しては「強くそう思う」が 42.9%（前年比 28.5%減）、「どちらかといえばそう思う」が 57.1%（前年比 28.5%増）となった。この結果は、昨年度より大幅に下がっている。勤務形態により		

	話し合える教員と難しい教員がいるため、より様々な教員が話し合える状況をつくる必要がある。 ・教員アンケートの問 9「幼稚園は、教員の教育・研究の為の環境（学会・研修会への参加も含む）づくりに努めている」には、「強くそう思う」が 42.9%（前年比 7.1%減）、「どちらかといえばそう思う」が 50.0%（前年比 21.4%増）、「あまりそうおもわない」が 7.1%（14.3%減）となった。教員が学会や研修会に参加できる体制が十分でないを考える。
今後の方策	・保護者に保育や子どもの様子を伝える際に、iPad を用い、より理解してもらえ る取り組みを行ったことが、保護者からの評価に作用したと考えられる。今後 も具体的に伝えていくことを大切に行っていく。 ・教員の勤務形態により話し合える教員と難しい教員がいるため、より様々な教 員が話し合える状況をつくる必要がある。教員間を繋ぐ役割を明確化し、話し 合う場を設けることを検討する。 ・教員が希望する学会や研修会等にも参加できる勤務体制を整える。

評価項目 【テーマ】	教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実、教員の教育・ 研究環境の整備】	自己評価	B
目標	○法人と連携した設備整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行 う ○法人と連携して園児の育ちに適した遊具、教材の充実を行う ○教員の教育、研究のための環境の充実を行う		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	（具体的な取組の状況） ・園児の活動の充実のため、様々なハーブ（ラベンダー、ミント、ローズマリー、 レモンバーム）、パンジーとビオラ等を栽培した。また、保育室・デッキなど には季節の花々（ベゴニア、ゼラニウム、シクラメン、ポインセチア等）を飾り 季節を感じられる環境を整えた。時期が過ぎたものや園庭の花、果実、葉など を擦りおろしたり、つぶしたり、ちぎったりし、五感を使う遊びに活用した。 年少組）つるなしインゲン 年中組）オクラ、フウセンカズラ 年長組）ヘチマ、トウモロコシ、インゲン 全学年）チューリップ、ヒヤシンス、クロッカス、カブ、ダイコン、ラディッ シュ、ヒマワリなど ・自然豊かな園庭の環境維持のため、教員は水やり、追肥、草抜き、間引きを行 うと共に教育的配慮を持ちつつ植物の育ちも考慮して、樹木の剪定・伐採等 を行った。 ・各保育室では、生き物を飼育し、園児が身近に生き物の命を感じられるよう にした。（アカハライモリ、メダカ、金魚、ヌマエビ、ドジョウ、ザリガニ、カタ ツムリ、カブトムシ、クワガタ等） ・日本の伝統的行事や季節に応じた装飾を行った。 4、5 月）五月人形、鯉のぼり、カーネーション（母の日） 7 月）七夕（笹飾り） 11、12 月）クリスマスツリー、アドベントカレンダー、クリスマスの窓飾り、 リース、アドベントクランツ（12 月には、園児にアドベントカレンダーを配布 している） ・春休み、夏休み、冬休み中などの保育を行っていない時期に、教員で園庭・デ ッキの木製遊具（小屋 4 棟、トンネル、六角デッキ、雲梯、平行棒、机など） に柿渋（防水防腐防虫）を塗布した。		

- ・ホール、職員室、保育室、デッキのワックスがけを行った（年1回）。
- ・教員は、園庭の池の環境維持を日々行い、年度当初には園庭にある櫛所の掃除を行った（泥、砂、落ち葉の除去など）。
- ・嫌気性細菌の増殖を防ぐため、教員で砂場（2か所）、腐葉土の掘り起こしを行った（週1回）。
- ・保育を始める前に毎朝、園庭・遊具の安全確認を行っている。また、随時施設部や聖和キャンパス事務室と連絡を取り、環境の保全に努めた。
- ・修繕箇所）正門、手洗い場の蛇口のぐらつき（2回）と水漏れ、トンネルの階段（2回）のぐらつきと留め具、園庭の机、園庭の小屋をつなぐ回廊（2回）と支柱、男子小便器、小屋の屋根、ネット遊具の撤去、保育室入口の鍵、保育室床のふくらみ（5か所）、電気錠の修繕と位置替え、火災報知器、滑車の撤去
- ・消防点検、屋上点検、ガス点検、壁と床の点検、空調点検、受電設備点検、火災報知機の交換、受水槽の清掃、等を行った。
- ・保護者会からの贈答品としてクリスマスにはジェンガを、卒園記念品にはフレクサトーン、スラップスティックをいただいた。
- ・各学年「福音館書店の月刊絵本」（こどものとも）（こどものとも年少版）（こどものとも年中向き）（特選こどものともライブラリー）（ちいさなかがくのとも）（月刊かがくのとも）（こどものともセレクション）（こどものせかい）（はじめての世界傑作絵本ライブラリー）（かがくのとも）（かがくライブラリーたべもの）（たくさんのふしぎ）（のりものえほんライブラリー）（知識ライブラリー）（えほんのいりぐち）を購入した。
- ・芋ほりを行うため、「紅はるか」（460本）、安納芋（40本）、パープルスイートロード（30本）の苗を購入。畑には一部、草の繁茂を防ぐためのシートを張った。親子での苗植え後に、園児・保護者・教員で日々、水やりや草抜きを行い、サツマイモの栽培の過程を経験し、秋には収穫の喜びを分かち合う機会を持つことができた。
- ・「令和6年度 私立幼稚園教員子育て支援研修」に参加。
（主催：一般社団法人 兵庫県私立幼稚園協会）
「障害児保育」 神戸大学名誉教授 鳥居深雪氏
「保護者と共有、共感する子どもの遊び」 玉川大学教授 田澤里喜氏
「保健衛生安全対策」 駒沢女子短期大学教授 猪熊弘子氏

（取組の効果に対する評価）

- ・保護者アンケートでは、問7「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検、整備を適切に行っている」に関して、「強くそう思う」が58.9%（前年比1.4%減）、「どちらかといえばそう思う」が37.7%（前年比0.4%増）、「あまりそう思わない」が3.4%（前年比1.6%増）であった。園庭・デッキ・保育室・遊具の安全確認、教育環境設備の点検、整備を適切に行っていることへの評価を得たが、保護者への周知が十分でなかった。
- ・保護者アンケートの問8「幼稚園は、子どもの興味や関心、育ちに応じて遊具・教材を整えている」に関しては、「強くそう思う」が74.7%（前年比0.4%減）、「どちらかといえばそう思う」が24.0%（前年比0.9%減）となり、概ね満足されている結果となった。今年度より iPad で園児の活動の様子を写真や動画で発信したことにより、保護者が日頃の保育環境を目にする機会が増え、幼稚園の教育環境への共感により繋がったことが窺える。しかし、「あまりそう思わない」との回答が1.4%あったことも考慮したい。
- ・教員アンケート問8「幼稚園は、園児の興味や関心、育ちに応じて遊具・教材

	を整えている」に関して、「強くそう思う」が 78.6% (前年比 21.5%増)、「どちらかといえばそう思う」が 21.4% (前年比 14.3%減) となった。担任や各学年で今年度に必要な物を検討し購入する以外にも、全教員で必要な教材を適時話し合い、共通理解が持てたことが言える。 ・教員アンケート問 9「幼稚園は、教員の教育・研究の為の環境（学会・研修会への参加も含む）づくりに努めている」に関して、「あまりそう思わない」が 7.1% (前年比 14.3%減) という結果になった。教師会では園児に関する事や日々の保育や行事にまつわることなどの話し合いを行い、研修会では子ども理解や保育に関わる様々な事柄に対して学びを深めた。それに加え、昨年度の方策をもとに、各学年での保育や子どものことを話し合い省察をする機会、また、他学年の教員や預かり保育担当の教員との情報共有をする機会を持てたことがより一層の教員間の連携や意識に繋がったのではないかと推測する。しかし、「強くそう思う」が 42.9% (前年比 7.1%減) と、半数を切っている結果に満足してはいけない。
今後の方策	・教員による日々の設備整備の点検を行い、補修が必要な場合は教員が対処できるところは行い、難しい場合は施設部に報告・連絡した上で修繕等を迅速に行う。また、必要に応じて保護者に説明をし、情報共有をする。 ・園児に適した遊具・教材を担当や各学年、全教職員で話し合い検討していく。また、意図を教職員全体に共有する。 ・教員の勤務形態に違いがある中、教師会や園内研修などの会議体だけでなく、教員一人ひとりが相互に園児についての育ちや願い、また、本園の教育方針等を共有する努力をする。

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との連携の強化】(重点)	自己評価	B
目標	○園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願い、家庭との連携を図る		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) ・入園、進級前に園児の生活調査票を提出していただいた。内容は身体的特徴やアレルギー、食事・排泄・睡眠の様子、家庭での教育方針や保護者から見た子どもの姿・性格・成長などである。これにより、事前に園児の理解につなげた。 ・毎日、園児を送迎する保護者と対面でコミュニケーションを図った。園児の体調面、遊びや生活の様子、仲間関係など日々の小さな変化を捉えて伝えたり、家庭での様子をお聞きし、共通理解をもって子どもの援助を行ったりした。 ・降園時、教員が保護者全体に向けて一日の活動や園児の姿、育ちや願いなどを伝え、園生活の理解につなげた。 ・今年度より各クラスで iPad を用いて保育中の様子を写真や動画で見て頂いた。 ・LeySerKids (園と保護者がつながる連絡アプリ) を多用化し、欠席や遅刻早退の連絡をアプリ上でできるようにした。 ・家庭訪問 (1 学期)、クラス懇談会 (1 学期)、親子登園日 (年少組 1 学期) 保育参観日 (年長組 3 回、年中組 3 回、年少組 2 回)、等を行った。また、夏休み明けには「やくそく帳・夏休み感想」を提出して頂き、休み中の家庭での園児の様子を把握し、援助につないだ。 ・毎週木曜日に絵本貸出を行い、親子読書ノートで絵本を読んでいる時の子どもの様子や親子のやりとりを記入していただいた。これらにより、園生活と家庭での生活の両面において子どもの姿を相互に理解し、援助することに努めた。 ・今年度、以下の保護者参加行事を実施した。		

1 学期) 進級式・入園式、年少親子お弁当参観日、年少親子登園日、年中・年長保育参観日、花の日礼拝、芋の苗植え、夕涼み会、親子で畑の草抜き
 2 学期) 年少バス遠足、運動会、芋掘り、保育参観日、クリスマス礼拝・祝会
 3 学期) 保育参観日、ミュージックフェスティバル、卒園式・3 学期終了式
 これらの行事に際し、おたよりを配布し、その行事の由来や子どもにとっての意味を保護者に事前に伝えた。

- ・保護者会総会を行った。幼稚園保護者会活動について園長が説明を行い、園児の園生活の充実に向けて共通理解を図った。

- ・幼稚園から幼保連携型認定こども園に移行するにあたり、次の説明会を行った。「年間行事予定説明会」「2025 年度以降の幼稚園についての説明会」「認定こども園についての補足説明会」説明後、個別に質問も受けて個人対応した。

- ・クリスマス準備保護者会、讃美歌練習を行い、クリスマス礼拝・祝会に備えた。

- ・保護者会のサークル活動では、楽しく充実した活動を通して保護者の方々の親睦が深まり、リフレッシュすることを通して心身の健康を支えた。なお、通年サークルの活動は、園児に還元される内容のものもある。

通年サークル) 図書、からだを動かす、手芸、木のパズル、コーラス・音楽

1 日サークル) 心肺蘇生法講習会、手芸サークル：クリスマスプレゼント相談会、入園準備手芸サークル

- ・保護者会役員が西宮市私立幼稚園連合会 P T A 大会参加した。

演題「子どもへのまなざし、大好きな人へのまなざし」

講師：小西 貴士氏

- ・保護者会役員会（月 1 回）は、役員と副園長によって行われた。内容は保護者会活動についての話し合い（毎回議題あり）等である。役員会の中では、保護者会会費の運営（クリスマス祝会、園へのクリスマスプレゼント、卒園式・終了式、卒園記念品、講演会など）内容の選定なども行った。

- ・ベルマークを園児家庭より収集、役員が集計した。今年度は 1102 点であった。

- ・副園長・臨床発達心理士による子育て相談を随時行い、保護者の悩みをお聞きし、より良い方向に向かうように支えた。

（取組の効果に対する評価）

- ・保護者アンケートでは、問 9「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている」に「強くそう思う」が 64.4%（前年比 1.7%減）、「どちらかといえばそう思う」が 32.9%（前年比 5.4%増）、「あまりそう思わない」が 2.7%（前年比 2.1%減）、「そう思わない」が 0.0%（前年比 1.6%減）であった。

一方で、教員アンケートでは、問 10「幼稚園は、日頃から園児の様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている」に「強くそう思う」が 78.6%（前年比 14.3%減）、「どちらかといえばそう思う」が 21.4%（前年比 14.3%減）であった。

昨年度、今後の方策として「日常的に直接話すことができる機会を積極的に設ける。その際、保護者の声を受け止める気持ちを持ち続ける」を挙げており、教員が意識して行った結果と推測する。また、保護者の園生活の理解として、iPad を用いて口頭では伝わり切らない子どもの姿に加え、園生活での様々な場면을発信した。加えて、園と保護者間の連絡方法として、従来は電話のみであった欠席連絡を LeySerKids で受けることにより、保護者にとって時間を問わず連絡が可能となった。また、幼稚園からは日常のお知らせ・行事等の参加調査・緊急連絡などを行い、保護者のもとに必要な情報が確実に届くようにした。これらも数値

	の高さに反映されていると思われる。しかしながら、保護者アンケートの「強くそう思う」が約6割にとどまっている。幼稚園の更なる努力が必要である。 ・保護者アンケートの問10「幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、保護者を連携を図っている」に「強くそう思う」が68.5%（前年比0.3%減）、「どちらかといえばそう思う」が29.5%（前年比2.0%増）となった。また、教員アンケートの問11「幼稚園は、園児の心身の健全な発達を願い、保護者と連携を図っている」に「強くそう思う」が71.4%（前年比増減なし）、「どちらかといえばそう思う」が28.6%（前年比増減なし）となった。概ね肯定的な回答が多い。これは日頃のコミュニケーションによって保護者と教員とで相互に子どもの姿や変化を伝え合っていることや、コロナ禍と比べて保護者参加行事や保護者会活動が活発になり、より連携を取りやすくなったことが考えられる。
今後の方策	・次年度から幼保連携型認定こども園に移行するため、多様な家庭環境に配慮する必要がある。保育時間の長短にかかわらず、どの保護者にも安心して頂けるように、直接的な話とiPadによる園生活の情報発信を行う。 ・保護者と対面で話す際は、保護者の立場に立って理解に努め、共に考え合う姿勢をもつ。 ・保護者参加行事や保護者会活動の充実と同時に、あり方を見直す。

評価項目 【テーマ】	安全管理 【日常の健康管理、疾病予防の取組、園医との連携による健康管理】	自己評価	A
目標	○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防に努める ○教員の対応できない怪我、疾病などについて園医に相談して最善の対応をする		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	（具体的な取組の状況） ・園児の健康状態や身体に関わること（アレルギー、既往歴、痙攣、発達障害、肢体不自由等）について教員間で共有した。また、必要に応じて園医や心理士にも相談した。 ・園児の食物アレルギーを教員間で把握し、園からのおやつ・食事に関しての原材料表やメニュー表を配布・掲示した。アレルギー対応のおやつに関してはミスや漏れを防ぐために、複数の目で確認し準備を行った。 ・園児の体調の変化に目を配り、必要に応じて検温し、健康管理に努めた。また、園児の状態に応じて保護者へ連絡をし、園児の怪我については保健館に相談し、連携を取った。 ・園医による健康診断、歯科検診を行った、また、身体測定を毎月行った。 ・園医による「ほけんだより」を配布し、園児の疾病予防や健康管理についての意識が高まるようにした。 ・園医による救急法講習会（AED、CPR、エピペン使用法等）を教員向け、保護者向けと2回行い、救急時の対応に備える機会をもった。 ・毎朝、教員で園庭や園舎周りを見回り、危険箇所や不審物等がないかを確認した。遊具等に不具合があった場合には使用不可にし、修繕、撤去の対応を取り安全を確保することができた。 ・教員は園児が登園する際に健康観察を行い、健康状態や心身の状態の把握に努め、園児のその日の様子について保護者と情報共有を行った。 ・年に4回の避難訓練（火災（室内）・地震（室内・屋外）、預かり保育（地震））を行った。避難訓練をきっかけに、家庭でも、防災・減災意識を高める機会となった。 ・手足口病・リンゴ病などの流行性疾病の罹患者数が園内で増えてきた際に、園		

	医に相談の上、保護者へ状況を伝えた。 ・ 疾病予防のため、教員から園児へ手洗い・うがいを促すとともに生活習慣として身に付くように支えた。食事の準備の際には机を消毒し、必要に応じて保育室の換気を行った。 ・ 夏季休暇中の預かり保育では、暑さ指数（WBGT）を毎日確認し、屋外での活動を制限し、プール遊びを日陰のデッキで行う等、園児の熱中症予防対策を講じた。 ・ 幼稚園内への不審者の侵入を防ぐため、園児の保護者へ吊り下げ名札を配り、送迎の際には提示をしていただいた。 ・ 通用扉の開錠スイッチの高さを上げる工事を行い、園児が園外へ飛び出すことを防いだ。 ・ 園児がフェンスの外側へ落下することを防ぐために、隣接する聖和キャンパスグラウンド側フェンスを、従来よりも高さのあるフェンスに取り換える工事を行い、安全を確保することができた。 （取組の効果に対する評価） ・ 保護者アンケートの問 12「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている（園医と連携の上）」では、「強くそう思う」が 60.3%（前年比 5.8%増）、「どちらかといえばそう思う」が 37.0%（前年比 6.9%減）となった。 ・ 教員アンケートの問 12「幼稚園は、園児一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている」に対して、「強くそう思う」が 71.4%（前年比 7.2%減）、「どちらかといえばそう思う」が 28.6%（前年比 7.2%増）となった。 ・ 保護者アンケートからは、幼稚園の取組に対して保護者から前向きな評価が得られた。昨年度の方策を踏まえ、保育中の園児の怪我や体調不良については教員個人で判断するのではなく、園医や保健館の指示を仰ぎ対応に努めた。このような幼稚園での取組が、概ね保護者に伝わっていることから、このような結果が得られたと考えられる。
今後の方策	・ 今後も園医、保健館と連携し、園児の健康状態の把握に努める。教員は園児一人ひとりの体調の変化に気付けるように丁寧に目を配る。保育中の怪我、体調不良については健康経過観察表を用いて、帰宅後の様子も保護者から聞き取り、症状の回復まで経過を把握する。 ・ 来年度は、幼保連携型認定こども園に移行することにより教員の勤務体制が変化する。園児の様子や健康状態などの情報共有、引継ぎを徹底する。 ・ 認定こども園化に伴い、新たに小児科健診（就学前の園児に向けた 5 歳児健診を含む）、歯科検診、眼科健診（視力検査）、耳鼻科健診（聴力検査）を実施する。 ・ 来年度より弁当給食が始まる。食物アレルギーによる事故を防ぐために、アレルギー別給食献立表の掲示、アレルギー児用のカトラリーセットの準備、二人以上での声出し確認等を行う。 ・ 認定こども園化に伴い、午睡が始まる。15 分おきの顔色・体調の確認、午睡チェック表の記入を行う。 ・ 引き続き、教員間の情報共有はもちろん、保護者との確認や意見も取り入れながら、園児の安全につながるように迅速な対応を心掛ける。

（自己評価）

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

昨年度の方策を受け今年度は、園児の園生活の様子を iPad を使って動画や写真で保護者に見てもらう機会を増やした。このことによって、より具体的に園生活の様子を知ることができ、保護者の安心につながったと思われる。保護者アンケートからは、全ての項目において、概ね肯定的な結果が得られた。これは、日々の教員の関わりや姿勢が、幼稚園の教育の根幹である「一人ひとりの園児が愛されていると感じられるキリスト教保育」への理解へとつながっていると考える。一方、教員アンケートに関しては、概ね肯定的な回答が得られたが、多くの項目で強くそう思うと答えた教員が減少した。教員によって、経験年数や、担っている役割が異なる。しかし、子どもを中心に据えた保育を行いたい気持ちは同じである。今後も子どもの姿を通して具体的な話し合いを重ね、援助方法や理念の共有に努めたい。

2024 年度の評価をふまえて 2025 年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育
- ・教育・保育課程、指導
- ・教育環境整備
- ・保護者との連携（重点）
- ・保健衛生、安全対策

第三者評価／学校関係者評価

全体的に、誠実な「自己点検・評価」が行われていることを確認しました。園児が、各年齢において、自他を尊重し、それぞれの良さを認め合いながら、さまざまな活動に主体的に取り組むことができるよう、援助やカリキュラム、環境設定等が工夫されていることがよくわかりました。保護者アンケートからも、子どもたちの育ちにに応じた援助や個人に寄り添った援助が行われていることへの肯定的な評価が多くあり、日々、教員同士が保育内容や情報を共有、協議しながら保育を進めている成果が出ていると思われます。また保護者とのコミュニケーションについて、iPad や連絡アプリなど、ICT の活用を通して、教員が積極的に日々の園児の様子を保護者と共有できたことは、保護者が保育方針を理解することにつながり、ひいては、園児の育ちを共に見守るシステムができており、大いに評価できます。

教育課程・指導・教育環境について、園児の個々の状況や季節に応じた、本園独自の保育内容が様々展開されていることが文面から確認できました。

視察では5月の保育を拝見しましたが、保育室に設置された大きな鯉のぼりの中で、教員が園児に情報を一方的に提供するのではなく、園児が自ら自主的、意欲的に考えることができるように、さまざま工夫した言葉がけがなされていました。今日の教育の中で期待される思考力、判断力、表現力の基礎が、関学幼稚園の教育課程・指導の中で育まれていると思われます。また誕生日会では保護者からの園児に宛てた手紙を皆の前で披露し、生まれた時の様子や励ましの言葉など親からの温かい愛情を誕生日の園児だけでなく友達とも共有する姿があり、これからの人生を生きていく上で最も大切な命の尊さや人との繋がりやの根幹的な部分を共有していることが大いに評価できます。

教員アンケートからは、さらなる教員自身の研究の環境・時間の確保の必要性が読み取られました。日常の中で教員の研修や学びの時間をどのように確保するのか、教員同士の共有方法や伝達方法等を話し合い、各教員の研究や課題が共有され、お互いに研究を深めていける工夫が期待されます。

豊かな保育環境のなかで、関西学院幼稚園の教育の根幹となる「キリスト教主義教育」が今年度も揺るぎなく実践されたことがわかりました。各評価項目に対する具体的な取組を丁寧に振り返り、全

体をとおして適切に自己点検・評価が行われています。

保護者アンケートの問2「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている」、問13「お子様は、幼稚園で過ごす事を楽しいと感じている」は、「強くそう思う」の回答が全項目の中で最も高い数値となり、園児一人ひとりの育ちを願いながらきめ細やかな保育が展開されたことが示されました。評価項目「安全管理」に関する保護者アンケートについても「強くそう思う」の回答が昨年度より増加しました。教職員、園医、心理士、保健館等の連携のもと、園児の健康と安全を守るための取組が徹底されたことは大変評価できます。

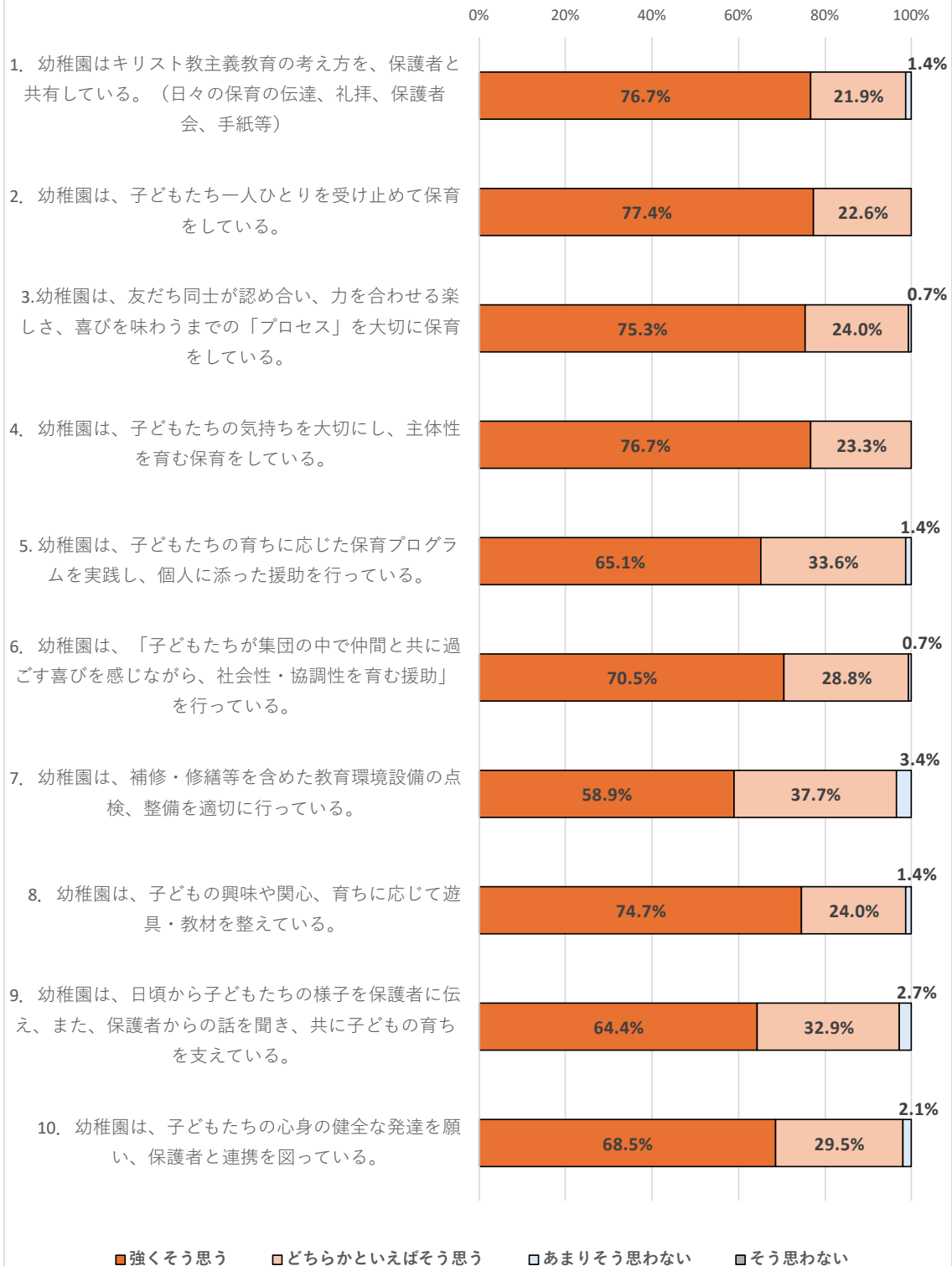
重点項目に設定した「保護者との連携」は自己評価が「B」でしたが、アンケートの結果では概ね肯定的な回答が得られています。特に、教員アンケートの問10「幼稚園は、日頃から園児の様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている」では、「強くそう思う」の回答が前年度より高く、教員の日々の丁寧な保育実践が評価につながったと思われます。iPadを用いた発信やLeySerKidsによる情報伝達・情報共有も行われ、保育の充実が図られたことは大変評価できます。保護者アンケートでは「強くそう思う」の回答は昨年度より若干低い数値となりましたが、今後の方策に示されたように「(前略)保護者の立場に立って理解に努め、共に考え合う姿勢をもつ」ことで保護者との連携がさらに深まることを期待します。

「教育課程・指導」「教育環境整備」は昨年度に引き続き「B」評価となりました。教員アンケートの問5「幼稚園は、園児の育ちに応じた保育プログラムを実践し、個人に添った援助を行っている」では、「強くそう思う」の回答が前年比28.5%減となり大幅に下がっていることが自己評価のなかに示されました。これは、園児一人ひとりの姿や育ちについて教員間で対話を重ねたことで、さらなる課題が見出された結果だと推察します。問9「幼稚園は、教員の教育・研究の為の環境(中略)づくりに努めている」、問15「教員は向上心を持って幼稚園に勤めている」の経年変化をみると、「強くそう思う」の数値は過去3年にわたり年々低下しています(問9. 56.3%→50.0%→42.9%)(問15. 68.8%→57.1%→42.9%)。保育の質向上のために、今年度も園内研修や園外研修が設けられましたが、今後の方策に示されたとおり、教員が希望する学会や研修会等に参加できるよう、勤務体制が整えられることを大いに期待します。

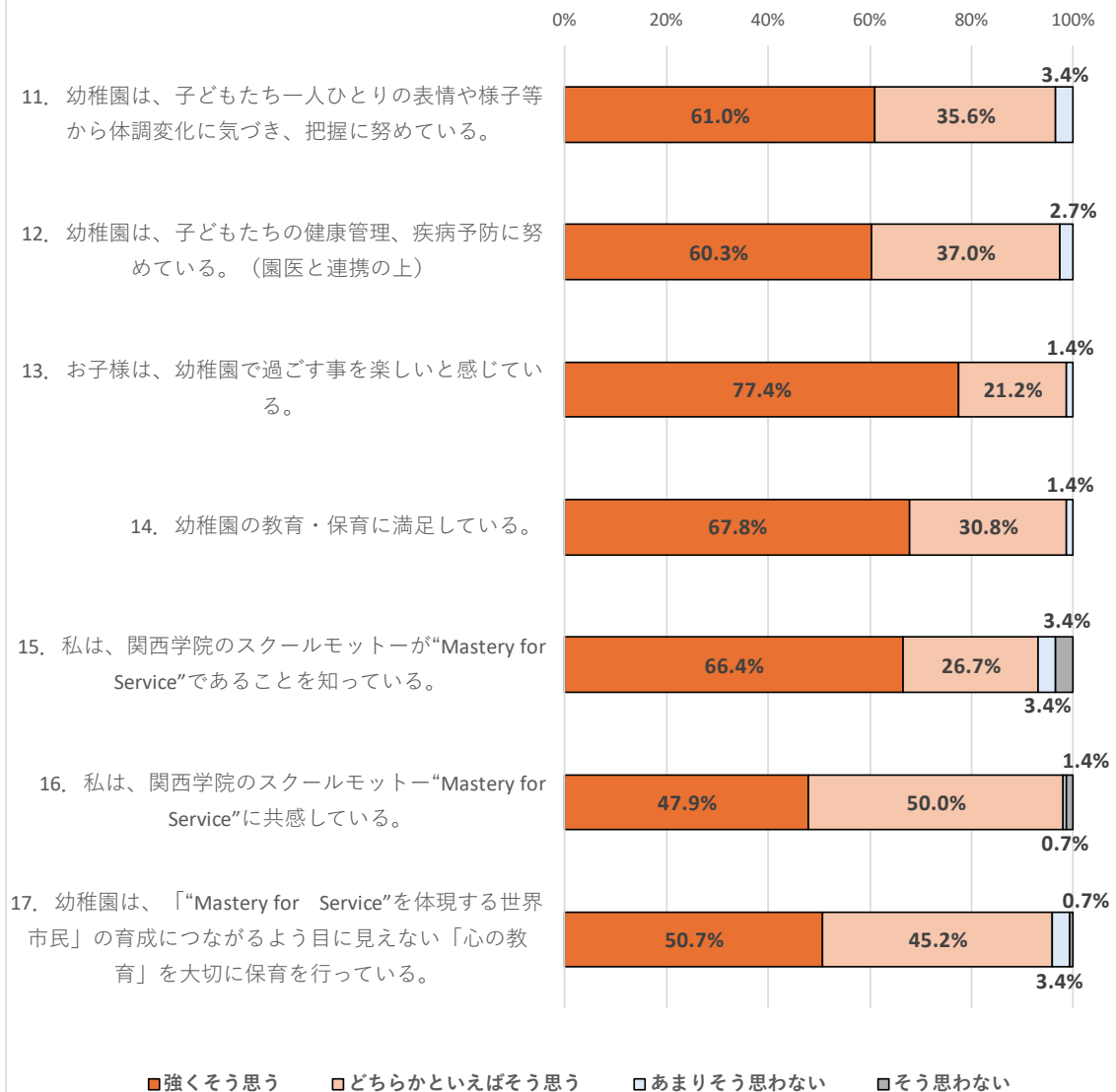
次年度は、関西学院幼稚園の伝統を受け継ぎながら、幼保連携型認定こども園として新たな歩みが始まります。これまでに積み重ねた自己点検・評価を今後につなげて、認定こども園の教育・保育に活かされる「評価項目」と「目標」の設定が望まれます。また達成状況を評価する指標となるアンケートについては具体的な目標値を掲げるなど、さらなる工夫が期待されます。

2024 年度学校評価

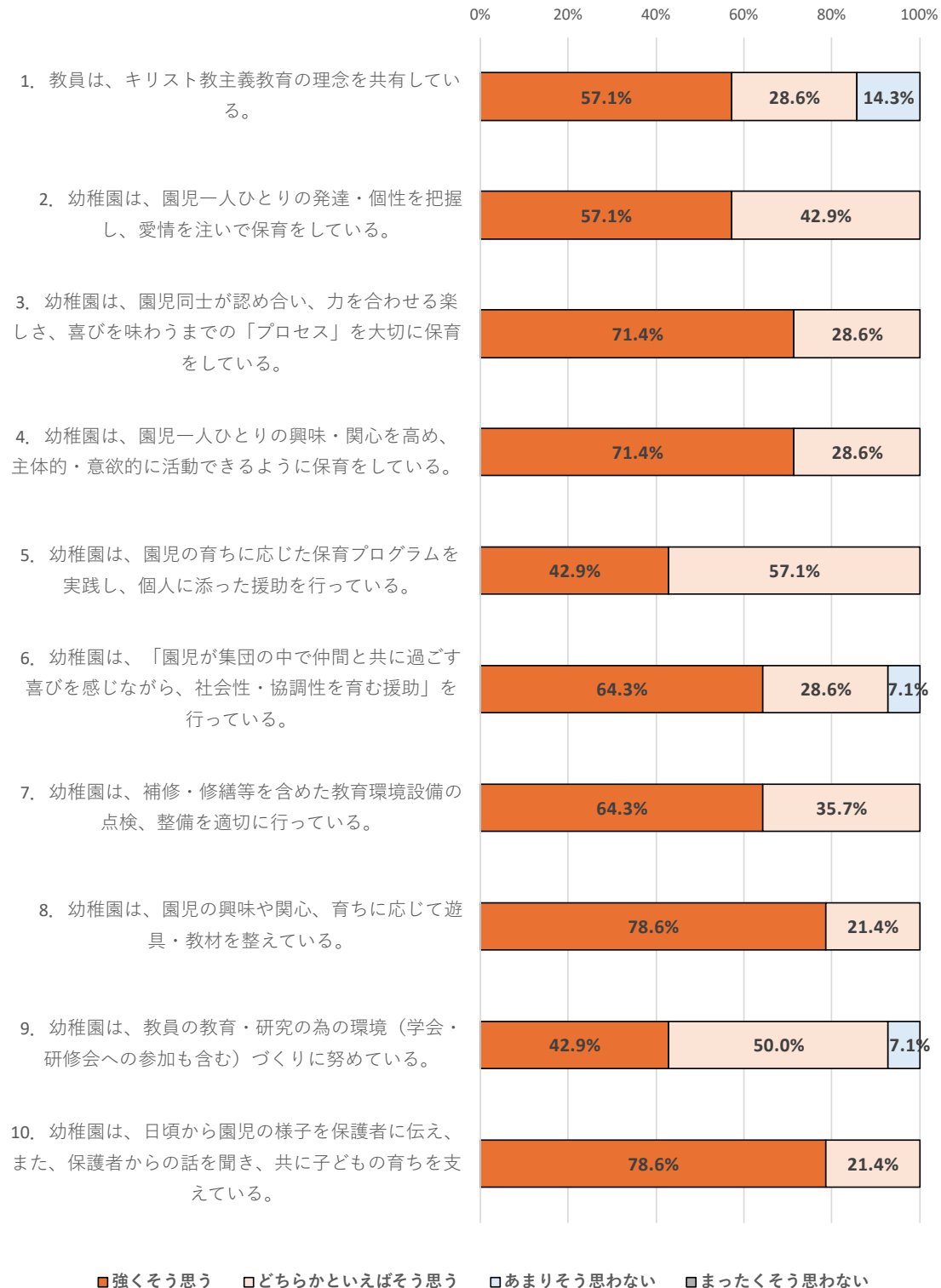
2024年度 学校評価アンケート集計結果
幼稚園・保護者（回答率 82.0% 回答146人/対象178人）



2024年度 学校評価アンケート集計結果
幼稚園・保護者（回答率 82.0% 回答146人/対象178人）



2024年度 学校評価アンケート集計結果
幼稚園・教員（回答率 93.3% 回答14人/対象15人）



2024年度 学校評価アンケート集計結果
幼稚園・教員（回答率 93.3% 回答14人/対象15人）

